

---

# 資料編

---

- 資料 1 安来市民アンケート結果（概要版） P. 1  
(地球温暖化と家庭の省エネ取り組みに関するアンケート：2020年9月実施)
- 資料 2 安来市の二酸化炭素排出量の推移 P. 7
- 資料 3 二酸化炭素排出量の算定方法 P. 8
- 資料 4 一人ひとりの省エネ行動 P. 9
- 資料 5 用語解説 P.13

# 資料 1 安来市民アンケート結果（概要版）

## 【協力団体】

島根県地球温暖化防止活動推進センター（松江市）  
有限会社ひのでやエコライフ研究所（京都市）

## 地球温暖化と家庭の省エネ取り組みに関するアンケート調査

### 1. 1. 報告書概要版（調査結果のポイント）

#### 【調査実施の概要】

- 地球温暖化問題や省エネの取り組みに関する意識調査として、2020年9月～10月に実施した。
- 島根県安来市の住民基本台帳をもとに無作為抽出した1,800件へ調査票を郵送し、977票回収した結果をとりまとめた。

#### 【結果の概要】

- ①地球温暖化は深刻だと考える人が9割以上に達する。
- ②7割近くの人が、地球温暖化を防ぐ取り組みには「暮らしの質」や「地域の豊かさ」の向上につながると考えている。
- ③定着している行動は「必要のない照明はこまめに」、自宅の省エネ設備・仕組みは「省エネ型エアコン冷蔵庫」や「LED」が多い。
- ④8割から9割の人が、次に選ぶときには「省エネ性能を重視」して選びたいと考えている。
- ⑤住宅の建て替え時に、断熱を検討している人は約4割、太陽光を検討している人は約2割いる。
- ⑥安来市への再生可能エネルギー施設の設置を求める割合は、若い人のほうが高い。
- ⑦安来市が優先的に対策すべきものは「洪水・土砂災害」とする回答が多い。
- ⑧情報源は、テレビは共通で多いが、高齢層は新聞・自治体広報、若年層はインターネット・SNSが多く、年代による違いがある。

#### 【各項目について】

#### ① 地球温暖化は深刻だと考える人が9割以上に達する

問 2「環境問題についてどれだけ深刻だと思いますか」という質問に対し、「深刻である」「やや深刻である」という回答を合計したところ、「地球温暖化とその影響」が91.1%と非常に高い割合だった。（本編3章2節(1)）

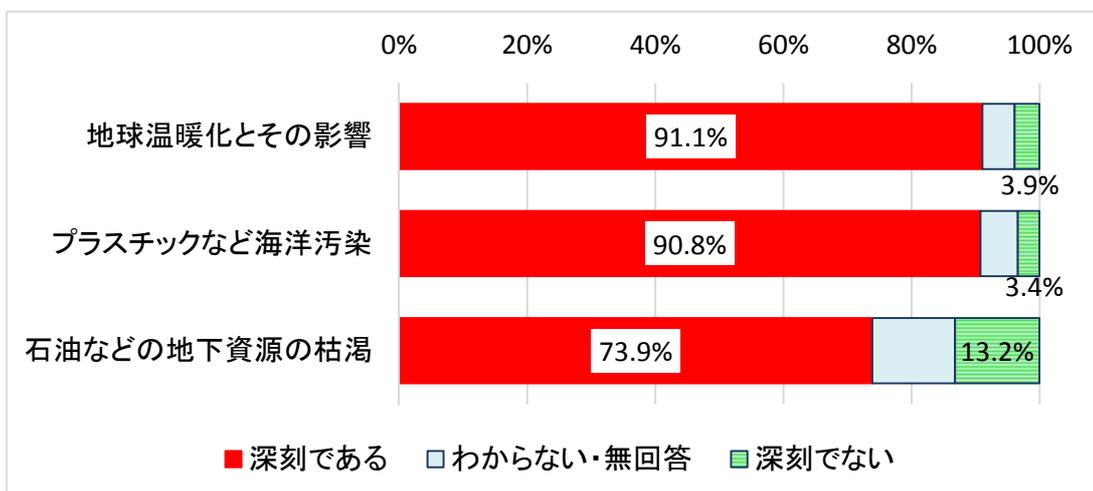


図 1 環境問題についてどれだけ深刻だと思いますか

② 7割近くの人が、地球温暖化を防ぐ取り組みには「暮らしの質」や「地域の豊かさ」の向上につながると考えている

問5「地球温暖化を防ぐ取り組みは、あなたの暮らしの質の向上につながるといいますか」、「地球温暖化を防ぐ取り組みを進めることは、地域の豊かさの向上につながるといいますか」という質問に対し、それぞれ「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答を合計したところ、「暮らしの質の向上」につながるとい回答は69.4%、「地域の豊かさの向上」につながるとい回答は73.6%あった。(本編3章2節(6)および(7))

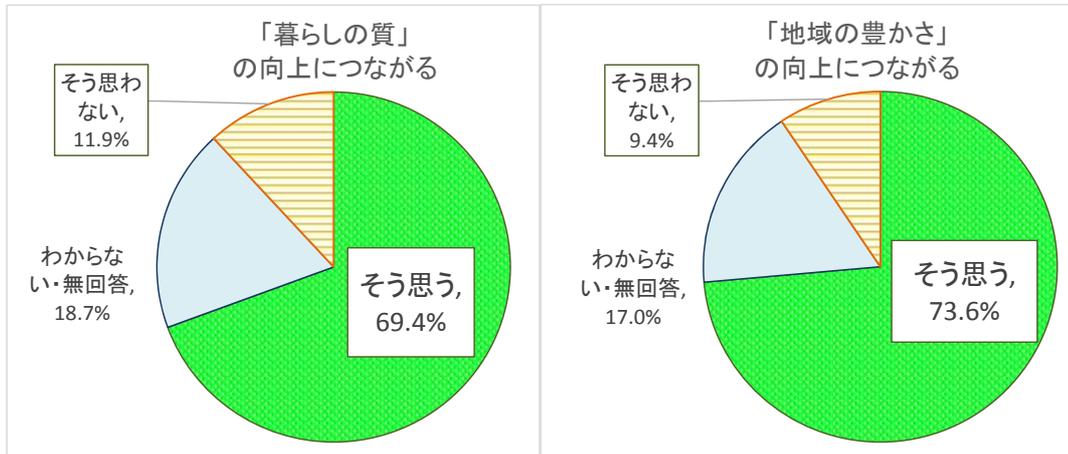


図2 地球温暖化を防ぐ取り組みは、「暮らしの質」「地域の豊かさ」の向上につながるといいますか？

③ 定着している行動は「必要のない照明はこまめに」、自宅の省エネ設備・仕組みは「省エネ型エアコン冷蔵庫」や「LED」が多い

問7「あなたは、省エネとしてどのような行動に取り組んでいますか」、および問8「あなたのご自宅で、省エネ型の設備や仕組みをすでに導入していますか」という質問に対し、行動では「必要のない照明をこまめに消している」との回答が最も多く、いつもしている人は62.1%に達した。また導入している設備や仕組みについては、「エアコン・冷蔵庫などは省エネ型」が67.0%、「居間の照明はLED」が59.4%と高かった。(本編3章3節(2)および(3))

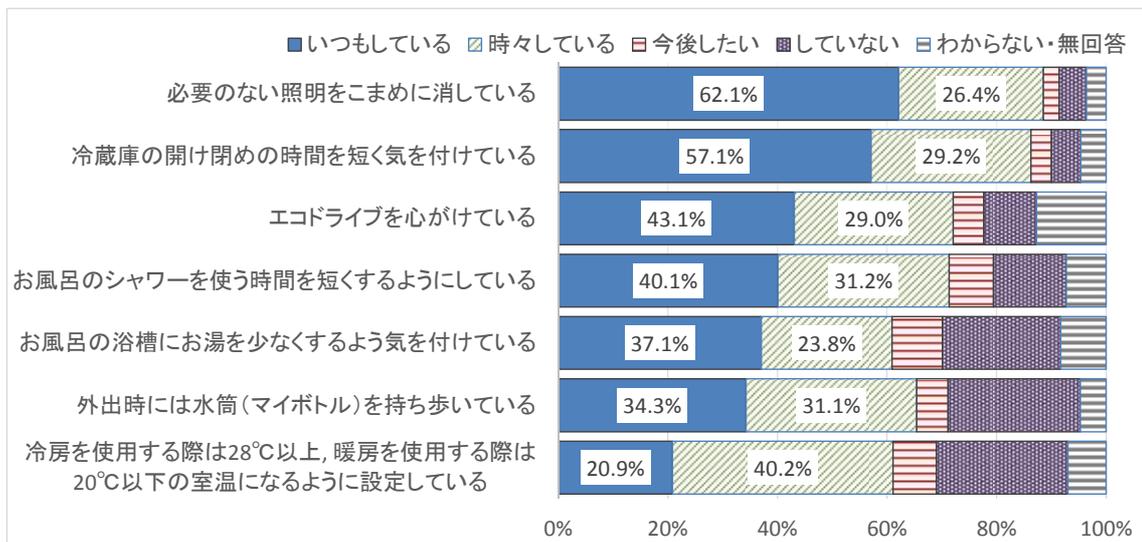


図3 あなたは、省エネとしてどのような行動に取り組んでいますか。

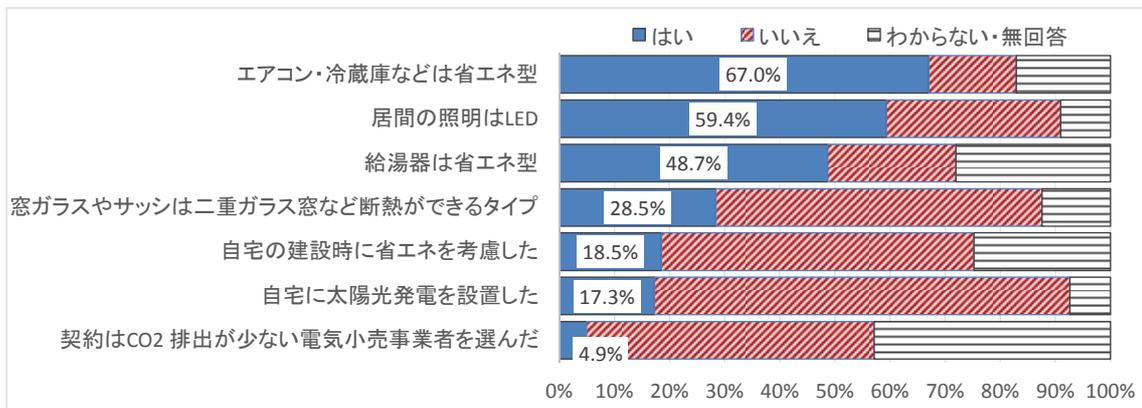


図 4 あなたのご自宅で、省エネ型の設備や仕組みをすでに導入していますか。

④ 8割から9割の人が、次に選ぶときには「省エネ性能を重視」して選びたいと考えている

問 9「次回買い替えるときには、省エネ性能を重視して選びたいですか」という質問に対し、「重視する」「少し重視する」を合わせると、最も少ない「自家用車」で 80.0%、最も多い「家電製品（エアコン、冷蔵庫など）」では 93.0%に達した。（本編 3 章 4 節 (2)）

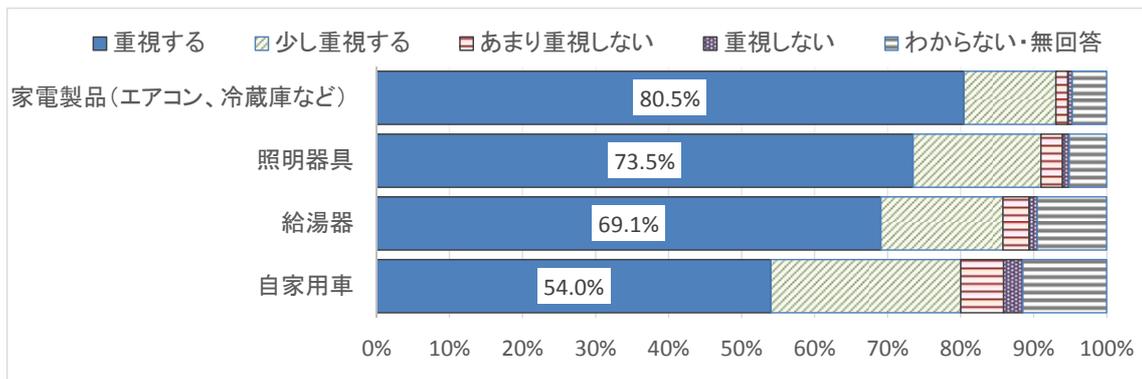


図 5 次回買い替えるときには、省エネ性能を重視して選びたいですか

⑤ 住宅の建て替え時に、断熱を検討している人は約4割、太陽光を検討している人は約2割

問11「今後、住宅を建て替えるとき、省エネや再生可能エネルギーの導入などを実施したいと思いますか」という質問に対し、「早く実施したい」「費用をみながら検討したい」を合わせた回答割合は、「窓の断熱」が40.0%、「壁や屋根・床の断熱」が39.4%、「太陽光発電の設置」が23.2%あった。(本編3章4節(4))

また、問12で「壁や窓、屋根など住宅の省エネについて、取り組もうと考える理由は何ですか」と尋ねたところ、上位3つの理由としては、「夏の暑さや冬の寒さを改善したい」「光熱費を下げたい」「健康に過ごしたい」があげられた。(本編3章4節(5))

また、問13で「太陽光発電などの設置について、取り組もうと考える理由は何ですか」と尋ねたところ、上位3つの理由としては「光熱費を安くしたい。電気を売って得をしたい」「災害時にも電源・熱源として利用できる」「環境にいい生活ができる」があげられた。(本編3章4節(6))

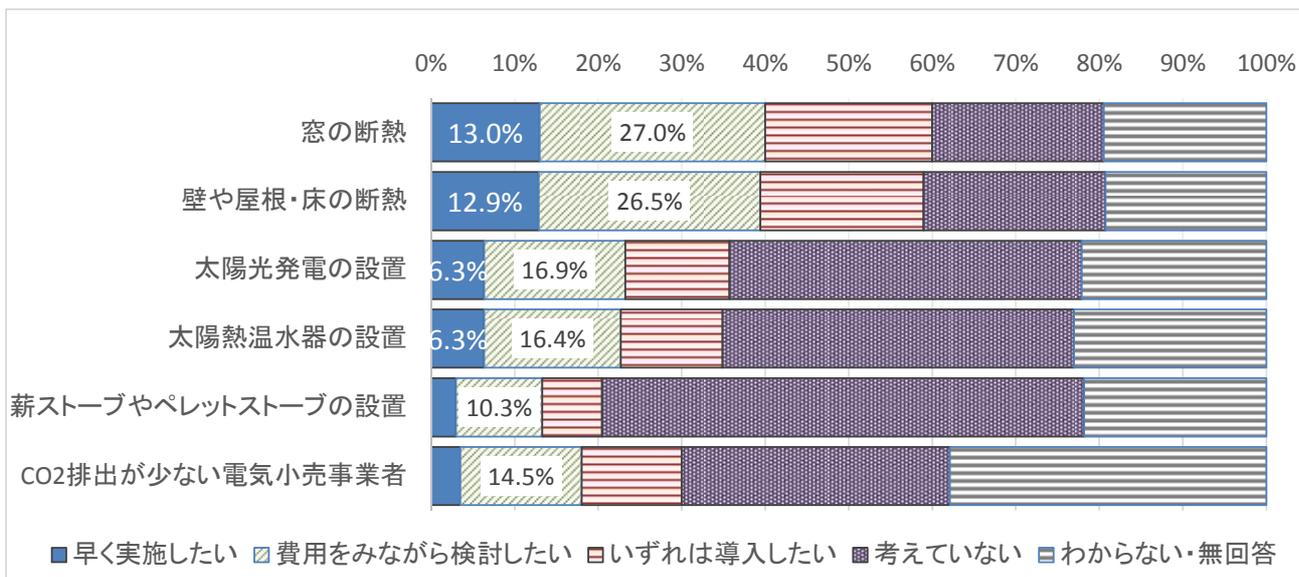


図6 今後、住宅を建て替えるとき、省エネや再生可能エネルギーの導入などを実施したいと思いますか

窓・壁や屋根・床の断熱を実施・検討したいと回答した人の主な理由

1. 夏の暑さや冬の寒さを改善したい 68.0%
2. 光熱費を下げたい 55.7%
3. 健康に過ごしたい 29.1%

太陽光発電を実施・検討したいと回答した人の主な理由

1. 光熱費を安くしたい。電気を売って得をしたい 57.9%
2. 災害時にも電源・熱源として利用できる 36.4%
3. 環境にいい生活ができる 33.2%

⑥ 安来市への再生可能エネルギー施設の設置を求める割合は、若い人のほうが高い

問 14「安来市内に作るべきだと思いますか」という質問に対し、年代別に比較を行ったところ、いずれの再生可能エネルギー施設についても、30代以下の若い世代が「導入・拡大すべき」と回答する割合が高い結果となった。（本編 4 章 8 節(2)）

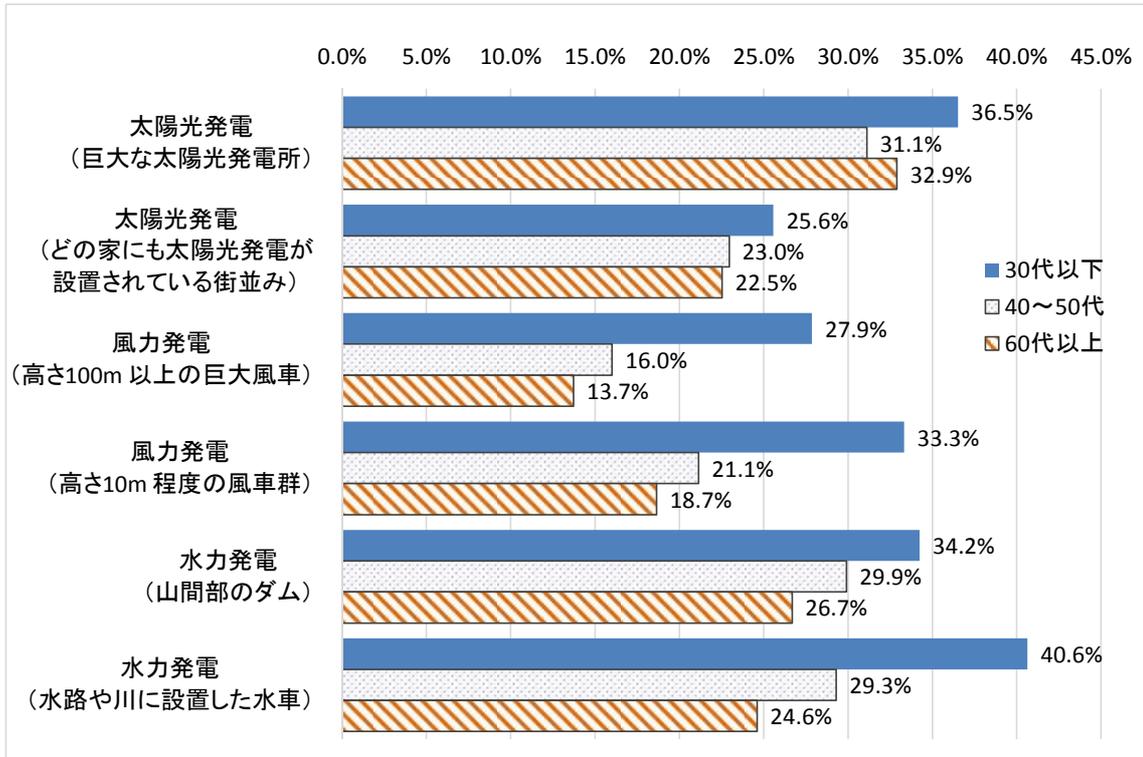


図 7 年代別の今後安来市内に導入・拡大すべき再生可能エネルギー施設

⑦ 安来市が優先的に対策すべきものは 「洪水・土砂災害」の対策

問 16「安来市が優先的に対策すべきもの」の質問に対し、「洪水・土砂災害」の対策を選ぶ人が 52.2%と最も多かった。（本編 3 章 5 節(3)）

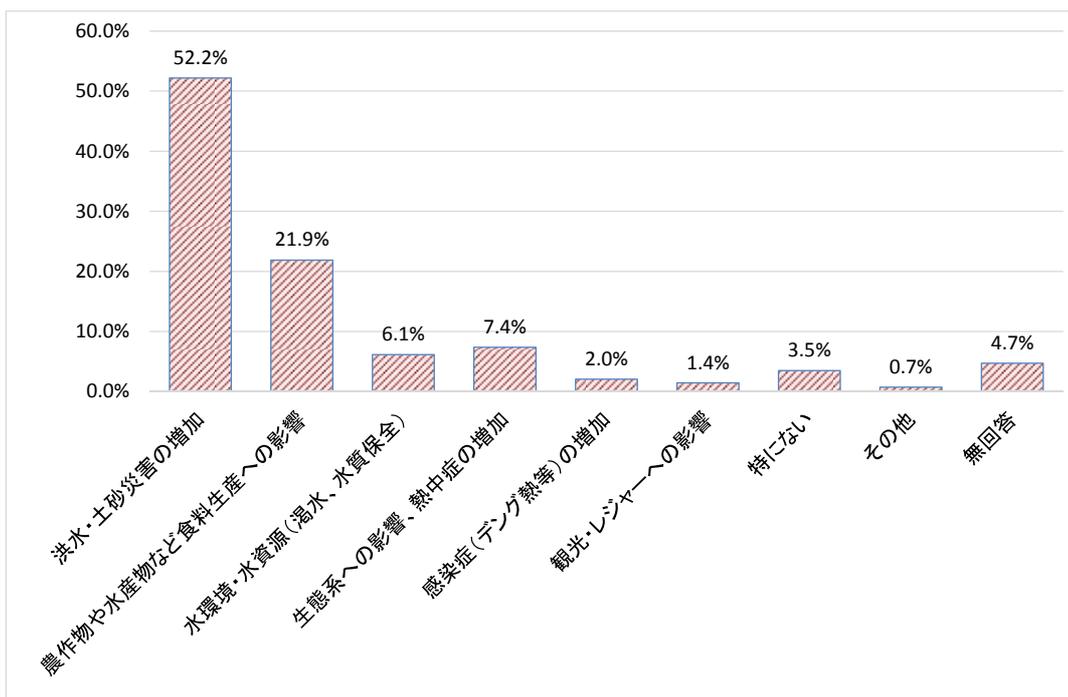


図 8 安来市が優先的に対策すべきもの

⑧ 情報源は、テレビは共通で多いが、高年齢層は新聞・自治体広報、若年層はインターネット・SNSが多く、年代による違いがある

問18「地球温暖化や省エネの方法に関する情報をどこから得ていますか」という質問に対し、どの年代でも「テレビ」が最も多い84.4%となっているが、2位以下については、高年齢層では「新聞」や「自治体の広報紙」が多かったのに対し、若年層では「インターネット」や「ソーシャルネットワークサービス（SNS）」が多かった。（本編4章11節(1)）

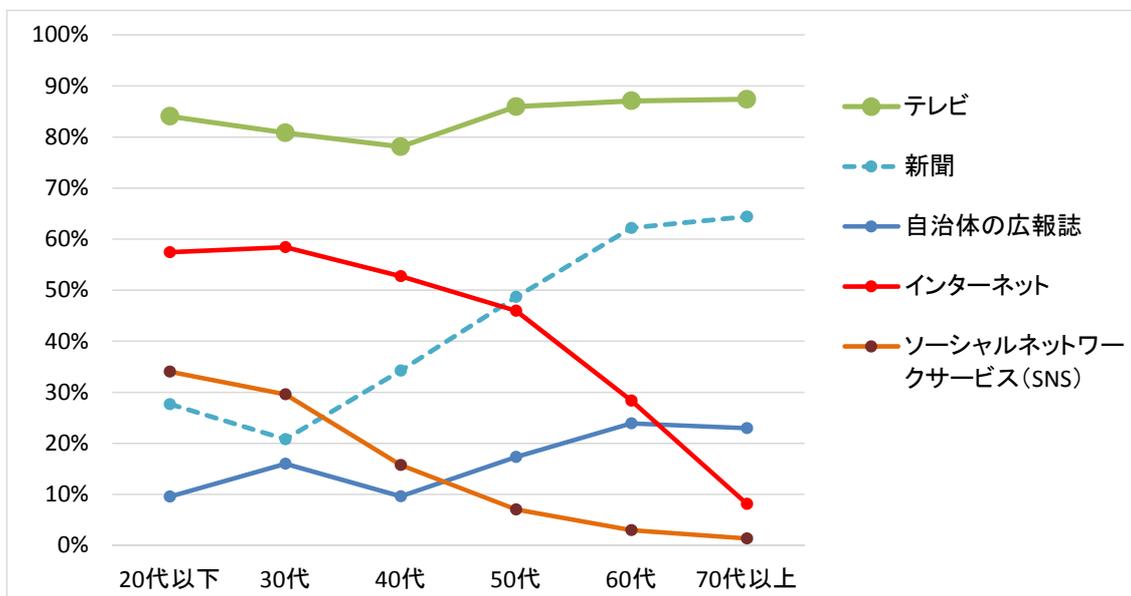


図9 「年代」と情報源

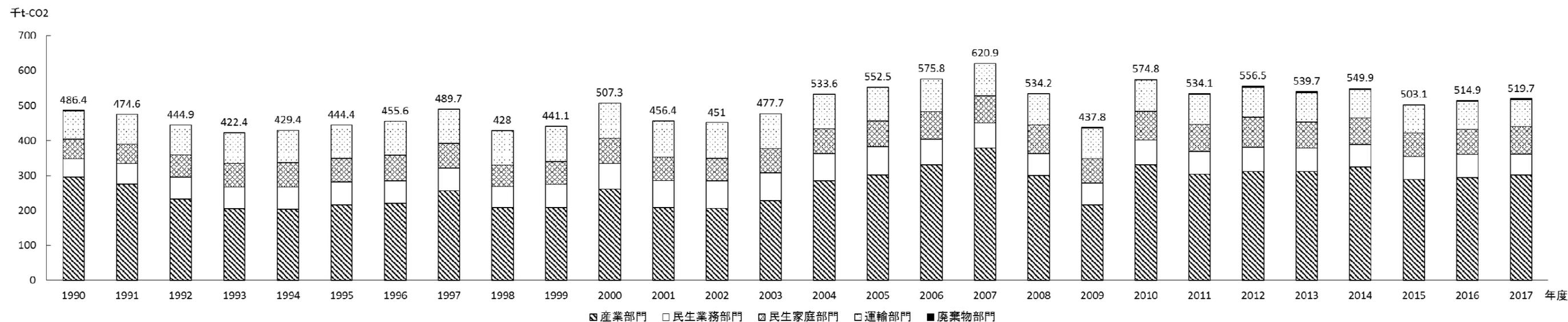
## 資料2 安来市の二酸化炭素排出量の推移

1990-2017年度

単位：千t-CO2

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
産業部門	296.0	275.3	232.9	205.0	203.0	215.0	220.4	255.3	208.6	208.1	260.7	207.8	205.6	227.4	283.3	301.6	330.3	377.6	299.6	215.3	330.6	303.7	311.8	310.7	324.0	288.1	294.2	300.9
製造業	288.1	265.7	222.6	195.2	192.3	204.8	210.3	245.4	199.3	198.6	252.0	197.0	195.0	217.0	273.4	293.2	322.9	369.7	295.7	204.4	318.4	291.4	305.2	304.3	317.1	281.2	287.4	293.7
建設業・鉱業	7.3	8.9	9.7	9.3	10.2	9.7	8.8	8.9	8.3	8.5	7.9	8.2	7.4	7.2	7.2	5.9	6.4	6.8	3.1	4.5	5.7	4.6	5.3	5.2	5.0	5.1	5.0	5.1
農林水産業	0.6	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	1.3	1.0	1.0	1.0	0.8	2.6	3.2	3.2	2.7	2.5	1.0	1.1	0.8	6.4	6.5	7.7	1.3	1.2	1.9	1.8	1.8	2.1
民生部門	107.5	114.2	124.9	129.3	134.4	134.2	137.0	136.5	120.6	131.4	145.2	145.1	143.6	149.6	151.1	155.1	152.3	151.3	145.3	132.8	153.8	141.6	155.3	141.8	140.4	132.6	138.7	138.7
民生業務部門	51.6	58.5	62.9	62.3	64.8	66.6	63.8	65.5	60.4	66.3	72.7	76.9	77.8	80.2	79.7	79.5	73.8	72.3	63.6	62.2	71.0	65.0	68.9	67.0	64.5	65.8	66.6	60.4
民生家庭部門	55.9	55.7	62.0	67.0	69.6	67.6	73.2	71.0	60.2	65.1	72.5	68.2	65.8	69.4	71.4	75.6	78.5	79.0	81.7	70.6	82.8	76.6	86.4	74.8	75.9	66.8	72.1	78.3
運輸部門	81.4	85.1	87.1	88.1	92.0	95.2	98.2	97.9	98.8	101.6	101.4	103.5	101.8	100.7	99.2	95.8	93.2	92.0	89.3	88.2	88.3	86.5	86.1	84.4	81.5	80.3	78.9	77.4
自動車	78.4	82.0	84.0	85.2	89.0	92.3	95.4	95.2	96.2	99.0	98.8	101.0	99.1	97.9	96.5	93.2	90.7	89.3	86.6	85.7	85.7	83.6	82.9	81.2	78.5	77.4	76.1	74.7
鉄道	3.0	3.1	3.1	2.9	3.0	2.9	2.8	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.7	2.8	2.7	2.6	2.5	2.7	2.7	2.5	2.6	2.9	3.2	3.2	3.0	2.9	2.8	2.7
廃棄物部門	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.5	2.1	2.3	3.3	2.8	4.0	2.1	3.1	2.7
合計	486.4	474.6	444.9	422.4	429.4	444.4	455.6	489.7	428.0	441.1	507.3	456.4	451.0	477.7	533.6	552.5	575.8	620.9	534.2	437.8	574.8	534.1	556.5	539.7	549.9	503.1	514.9	519.7

※廃棄物部門については、算定資料収集の都合上、基準年度（1990年度）と2009年度以降のみを推計



### 資料3 二酸化炭素排出量の算定方法

安来市の二酸化炭素排出量の推計にあたっては、環境省作成の「地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアル（第1版）簡易版」に準じて算出しています。各部門の算出方法は次のとおりです。

部門等		推計の考え方	算出方法（単位：千t-CO <sub>2</sub> ）	引用統計資料
産業部門	製造業	製造業から排出されるCO <sub>2</sub> は、製造業の製造品出荷額等に比例すると仮定し、島根県の製造品出荷額等あたり炭素排出量に対して、安来市の製造品出荷額等を乗じて推計します。	$= \frac{\text{島根県の製造業炭素排出量[千t-C]}}{\text{島根県の製造品出荷額等[万円]}} \times \text{安来市の製造品出荷額等[万円]} \times \frac{44}{12}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県別エネルギー消費統計「経済産業省」</li> <li>工業統計調査「経済産業省」</li> </ul>
	建設業・鉱業	建設業・鉱業から排出されるCO <sub>2</sub> は、建設業・鉱業の従業者数に比例すると仮定し、島根県の従業者数あたり炭素排出量に対して、安来市の従業者数を乗じて推計します。	$= \frac{\text{島根県の建設業・鉱業炭素排出量[千t-C]}}{\text{島根県の従業者数[人]}} \times \text{安来市の従業者数[人]} \times \frac{44}{12}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県別エネルギー消費統計「経済産業省」</li> <li>経済センサス(事業所・企業統計調査)「総務省統計局」</li> </ul>
	農林水産業	建設業・鉱業から排出されるCO <sub>2</sub> は、建設業・鉱業の従業者数に比例すると仮定し、島根県の従業者数あたり炭素排出量に対して、安来市の従業者数を乗じて推計します。	$= \frac{\text{島根県の農林水産業炭素排出量[千t-C]}}{\text{島根県の従業者数[人]}} \times \text{安来市の従業者数[人]} \times \frac{44}{12}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県別エネルギー消費統計「経済産業省」</li> <li>経済センサス(事業所・企業統計調査)「総務省」</li> </ul>
民生家庭部門		家庭部門から排出されるCO <sub>2</sub> は、世帯の数に比例すると仮定し、島根県の世帯あたり炭素排出量に対して、安来市の世帯数を乗じて推計します。	$= \frac{\text{島根県の家庭部門炭素排出量[千t-C]}}{\text{島根県の世帯数[世帯]}} \times \text{安来市の世帯数[人]} \times \frac{44}{12}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県別エネルギー消費統計「経済産業省」</li> <li>住民基本台帳「総務省」</li> </ul>
民生業務部門		業務部門から排出されるCO <sub>2</sub> は、従事者数に比例すると仮定し、島根県の従事者あたり炭素排出量に対して、安来市の従事者を乗じて推計します。	$= \frac{\text{島根県の業務部門炭素排出量[千t-C]}}{\text{島根県の従事者数[人]}} \times \text{安来市の従事者[人]} \times \frac{44}{12}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県別エネルギー消費統計「経済産業省」</li> <li>経済センサス(事業所・企業統計調査)「総務省」</li> </ul>
運輸部門	自動車 旅客	自動車から排出されるCO <sub>2</sub> は、自動車の保有車台数に比例すると仮定し、全国の保有台数あたり炭素排出量に対して、安来市の保有台数を乗じて推計します。この推計は旅客乗用車、貨物自動車それぞれに対して行います。	$= \frac{\text{全国の自動車車種別炭素排出量[千t-C]}}{\text{全国の自動車車種別保有台数[台]}} \times \text{安来市の自動車車種別保有台数[台]} \times \frac{44}{12}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県別エネルギー消費統計「経済産業省」</li> <li>自動車保有台数統計データ「(財)自動車検査登録情報協会」</li> </ul>
	自動車 貨物			
鉄道		鉄道から排出されるCO <sub>2</sub> は、人口に比例すると仮定し、全国の人口あたり炭素排出量に対して、安来市の人口を乗じて推計します。	$= \frac{\text{全国の運輸鉄道炭素量[千t-C]}}{\text{全国の人口[人]}} \times \text{安来市の人口[人]} \times \frac{44}{12}$	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県別エネルギー消費統計「経済産業省」</li> <li>住民基本台帳「総務省」</li> </ul>
廃棄物部門	一般廃棄物	一般廃棄物から排出されるCO <sub>2</sub> は、市区町村が管理している一般廃棄物焼却施設で焼却される、廃プラスチック及び合成繊維の量に対して排出係数を乗じて把握します。事務組合などが広域で処理している場合は処理量を按分します。	$= \text{焼却処理量[t]} \times (1 - \text{水分率}) \times \text{プラスチック類比率} \times 2.26[\text{廃プラの焼却に係る排出係数}] + \text{焼却処理量[t]} \times \text{全国平均合成繊維比率}(0.028) \times 2.29[\text{合成繊維の焼却に伴う排出係数}]$	<ul style="list-style-type: none"> <li>安来市環境衛生課資料</li> </ul>

## 資料4 一人ひとりの省エネ行動

項目		省エネ行動	CO <sub>2</sub> 削減量 [kg-CO <sub>2</sub> /年]
エアコン	夏の冷房	【設定温度】 外気温度 31℃の時、エアコン（2.2kw）の冷房 設定温度を 27℃から 28℃にした場合。 （使用時間：9 時間/日）	10.6
		【必要時のみ使用】 冷房を1日1時間短縮した場合(設定温度:28℃)	6.6
	冬の暖房	【設定温度】 外気温度 6℃の時、エアコン（2.2kw）の冷房設 定温度を 21℃から 20℃にした場合。 （使用時間：9 時間/日）	18.6
		【必要時のみ使用】 暖房を1日1時間短縮した場合(設定温度:20℃)	14.3
	フィルター清掃	【1～2回/月】 フィルターが目詰まりしているエアコン （2.2kw）とフィルターを清掃した場合の比較	11.2
ファンヒーター	ガス ファンヒーター	【設定温度】 外気温度 6℃の時、暖房の設定温度を 21℃から 20℃にした場合。（使用時間：9 時間/日）	18.6
		【必要時のみ使用】 運転を1日1時間短縮した場合。（設定温度：20℃）	30.2
	石油 ファンヒーター	【設定温度】 外気温度 6℃の時、暖房の設定温度を 21℃から 20℃にした場合。（使用時間：9 時間/日）	25.4
		【必要時のみ使用】 運転を1日1時間短縮した場合。（設定温度：20℃）	40.9
電気 カーペット	広さにあった大き さを	室温 20℃のとき、設定温度が「中」の状態 で、3畳用と2畳用の比較。（1日5時間使用）	31.5
	設定温度は低めに	3畳用で、設定温度を「強」から「中」に した場合。（1日5時間使用）	65.1
電気こたつ	使用工夫	こたつ布団だけの場合と、こたつ布団に上掛 けと敷布団を併用した場合の比較。 （1日5時間使用）	11.4
	設定温度	設定温度を「強」から「中」にした場合。 （1日5時間使用）	17.1
電気ポット	使用時間短縮	ポットに水 2.2 ㍓を入れ沸騰させ、1.2 ㍓を 使用後、6 時間保温状態した場合と、保温 しないで再沸騰させて場合の比較。	37.6

## 資料 4 一人ひとりの省エネ行動

項目		省エネ行動	CO <sub>2</sub> 削減量 [kg-CO <sub>2</sub> /年]
照明器具	白熱電球	【取替え】 54W の白熱電球から 12W の電球形蛍光ランプに変更した場合。	29.4
		【使用時間短縮】 54W の白熱電球 1 灯の点灯時間を 1 日 1 時間短縮した場合。	6.9
	電球形蛍光ランプ	【使用時間短縮】 12W の蛍光ランプ 1 灯の点灯時間を 1 日 1 時間短縮した場合。	1.5
テレビ	液晶	【使用時間短縮】 1 日 1 時間テレビ (32V 型) を見る時間を減らした場合。	5.9
		【輝度調整】 テレビ (32V 型) の画面輝度を最大→中央に調節した場合。	9.5
	プラズマ	【使用時間短縮】 1 日 1 時間テレビ (42V 型) を見る時間を減らした場合。	19.8
		【輝度調整】 テレビ (42V 型) の画面輝度を最大→中央に調節した場合。	53.2
パソコン	デスクトップ	【電源オフ】 1 日 1 時間利用時間を短縮した場合。	11
		【電源オプション】 電源オプションを「モニタの電源をオフ」から「システムスタンバイ」にした場合。3.25 時間/週、52 週	4.4
	ノート	【電源オフ】 1 日 1 時間利用時間を短縮した場合。	1.9
		【電源オプション】 電源オプションを「モニタの電源をオフ」から「システムスタンバイ」にした場合。 (3.25 時間/週、52 週)	0.5
電気ポット	使用時間短縮	ポットに水 2.2 ㍓を入れ沸騰させ、1.2 ㍓を使用後、6 時間保温状態した場合と、保温しないで再沸騰させて場合の比較。	37.6

## 資料4 一人ひとりの省エネ行動

項目		省エネ行動	CO <sub>2</sub> 削減量 [kg-CO <sub>2</sub> /年]
ガス給湯器	低温設定	65 ㍓の水水道水（水温 20℃）を使い、湯沸器の設定温度を 40℃から 38℃にした場合。（1日2回）	20
電気冷蔵庫	ものを詰め込みすぎない	詰込んだ場合と、半分にした場合との比較。	15.3
	無駄な開閉はしない	周囲温度 22℃で、設定温度を「強」から「中」にした場合。	3.6
	開けている時間を短く	冷蔵庫は 12 分毎に 25 回、冷凍庫は 40 分毎に 8 回の開閉（10 秒）を行った場合と、その 2 倍の回数を行った場合との比較。	2.1
	設定温度は適切に	開けている時間が 20 秒間の場合と、10 秒間の場合との比較。	21.6
	壁から適切な間隔で設置	上と両側が壁に接している場合と片側が壁に接している場合との比較。	15.8
電子レンジ	葉菜（ほうれん草、キャベツ）	【下ごしらえに活用】 100g の食材を 1 ㍓の水（27℃程度）に入れ沸騰させ煮る場合と、電子レンジで下ごしらえをした場合の差。	14.3
	果菜（ブロッコリー、かぼちゃ）		15.4
	根菜（ジャガイモ、里芋）		13.9
ガスコンロ	使用工夫	水 1 ㍓（20℃程度）を沸騰させる時、強火から中火にした場合。（1日3回）	5.4
食器洗い乾燥機	まとめ洗い	給湯器（40℃）、使用水量 65 ㍓/回（冷房期間は、給湯器を使用しない）の手洗いの場合と給水接続タイプで標準モードを利用した食器洗い乾燥機の場合との比較。（2回/日）	2
風呂給湯器	続けて入浴	2 時間放置により 4.5℃低下した湯（200 ㍓）を追い焚きする場合。（1回/日）	87
	使用時間短縮	45℃のお湯を流す時間を 1 分間短縮した場合。	29.1
温水洗浄便座	使用工夫	フタを閉めた場合と、開けっ放しの場合との比較。（貯湯式）	12.2
		便座の設定温度を一段階下げた（中→弱）の場合。（貯湯式）	9.2
		洗浄水の温度設定を年間一段階下げた（中→弱）の場合。（貯湯式）	4.8
洗濯機	まとめ洗い	定格容量（洗濯・脱水容量：6 kg）の 4 割を入れて洗う場合と、8 割で洗う場合との比較。	2.1

## 資料 4 一人ひとりの省エネ行動

項目		省エネ行動	CO <sub>2</sub> 削減量 [kg-CO <sub>2</sub> /年]
掃除機	使用時間短縮	利用する時間を1日1分間短縮した場合。	1.9
	適宜取替え	パックいっぱいになりゴミが詰まった状態と、未使用のパックの比較。	0.5
自動車	ふんわりアクセル	各省エネ行動ごとの削減割合は、スマートドライブコンテスト*の操作別燃料消費削減割合による。アイドリングストップについて30kmごとに4分間の割合で行うものとし、アイドリング時の消費燃料は「エコドライブ10のすすめ」による「アイドリングストップ」による。年間削減量および年間走行距離、平均燃費は、2,000CC普通乗用車/10,000km走行とし、平均燃費11.5km/Lで計算。	194
	加速度の少ない運転		68
	早めのアクセルオフ		42
	アイドリングストップ		40.2



一般財団法人 省エネルギーセンターの「家庭の省エネ大事典 2012 年版」をもとに作成しています。一人一人のライフスタイルを変えることによって、温暖化対策に大きく役立ちます。

その全ての省エネ取り組みを行ったと仮定すると、二酸化炭素排出量は、

1.14t-CO<sub>2</sub>/年・人

となり、

小さな取り組みも積み重ねれば大きな効果になることがわかります。

## 資料5 用語解説

	用語	解説
あ行	異常気象	気候が平均的状态から大きく偏った状態。 気温、降水量などの気象要素が過去30年以上にわたって観測されなかったほど著しく高いか、あるいは低い値を示す場合。
	エコドライブ	燃費向上のために自動車などの運転する際、環境に配慮を行った運転方法のこと。 自動車は同じ距離を移動するにも、運転方法などによって消費する燃料の量に差が生じる。
か行	化石燃料	地質時代にかけて堆積した動植物などの死骸が地中に堆積し、長い年月をかけて地圧・地熱などにより変成されてできた、化石となった有機物のうち、人間の経済活動で燃料として用いられるもの。 石炭・石油・天然ガス・メタンハイドレートなど。
	カーボンニュートラル	二酸化炭素の排出量と吸収量が同じ量になること。
	気候変動枠組条約	「気候変動に関する国際連合枠組条約」の略称。 目的は、大気中の温室効果ガスなどの増加が地球を温暖化し、自然の生態系などに悪影響を及ぼすおそれがあることを、人類共通の関心事であると確認し、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させ、現在および将来の気候を保護することである。条約は、気候変動がもたらす様々な悪影響を防止するための取り組みの原則、措置などを定めている。
	気候変動枠組条約締約国会議 (COP)	気候変動枠組条約の締結国により、温室効果ガス排出削減などを協議する会議。第3回会議(COP3)では「京都議定書」、第21回会議(COP21)では「パリ協定」が採択されている。
	京都議定書	1997年に京都市で開催された第3回気候変動枠組条約締約国会議(COP3)で採択された議定書。 温室効果ガスについて、先進国における1990年を基準とした各国の2012年の削減率を定め、共同で約束期間内に目標を達成することが定められた。
さ行	再生可能エネルギー	自然から半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギー。 水力・地熱・太陽光・太陽熱・風力・雪氷熱・温度差・バイオマス・波力などがある。温室効果ガスを排出することなくエネルギーを得られるため、地球温暖化対策として重要視されている。
	産業革命	18世紀にイギリスで起こった産業分野における革命。農業から工業(近代産業)を基盤とする社会への移行となった。科学技術の進歩によってもたらされた社会経済の成長とともに、石炭やガス、石油といった再生不可能な化石燃料への依存する社会に移ることとなった。

	用語	解説
た行	地産地消	地域生産地域消費などの略。その地域で作られた農産物・水産物を、その地域で消費すること。輸送によるエネルギー使用や費用が抑えられるとともに、地域の食材・食文化への理解、地域経済活性化、食料自給率の向上などが期待されている。
	トップランナー	電気製品・自動車などの省エネルギーの基準を、現在もっとも優れた性能をもつ製品に合わせる方式をトップランナー制度という。よって、トップランナー製品とは、同種製品において、省エネルギーに優れたものを指す。
は行	バイオマス	枯渇性資源ではない、現生生物体構成物質起源の産業資源。バイオマスは有機物であるため、燃焼させると二酸化炭素が排出されます。しかしこれに含まれる炭素は、そのバイオマスの成長過程で光合成により大気中から吸収した二酸化炭素に由来するため、バイオマスを使用しても全体として見れば大気中の二酸化炭素量を増加させていないと考えられる。
	パリ協定	2015年にフランスのパリで開催された第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で採択された気候変動に抑制に関する国際的な協定。
や行	安来市一般廃棄物処理基本計画	安来市が一般廃棄物を適正に処理するために推進すべき施策・事業の基本方針を示すとともに、今後の環境行政執行のための目安を示したもの。
	やすぎ環境フェア	安来市・安来市地球温暖化対策地域協議会で共催事業。環境意識啓発を目的とした環境イベント。平成23年から毎年1回開催している。
	安来市地球温暖化対策地域協議会	地球温暖化対策を市民・事業者・行政が協働で推進していくことを目的に平成21年7月に設置された協議会。
	安来市地球温暖化対策地域推進計画	市民・事業者・行政の役割を示し、地域の暖化対策を協働で地球温暖化を進めるため、平成21年10月に策定した計画で、本計画の旧計画に位置づけられる。
ら行	ライフスタイル	生活の様式や営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。
英数	COOL CHOICE	「クールチョイス」 2030年度に温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のため、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという取組のことです。
	COP (Conference of Parties)	「コップ」 気候変動枠組条約締約国会議を参照

	用語	解説
英数	HEMS (Home Energy Management System) BEMS (Building and Energy Management System)	「ヘムス」「ベムス」 家庭内で多くのエネルギーを消費するエアコンや給湯器を中心に、照明や情報家電まで含め、エネルギー消費量を可視化しつつ積極的な制御を行うことで、省エネやピークカットの効果を狙う仕組。 事業用ビルの場合は BEMS。
	IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change)	「アイピーシーシー」気候変動に関する政府間パネル 国際的な専門家で作る、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構で、学術的な機関であり、地球温暖化に関する最新の知見の評価を行い、対策技術や政策の実現性やその効果、それが無い場合の被害想定結果などに関する科学的知見の評価を提供している。
	LED (light emitting diode)	「エルイーディー」発光ダイオード LED 照明は長寿命で消費電力が少ない。
	SDGs (Sustainable Development Goals)	「エスディージーズ」持続可能な開発目標 2015 年に国連加盟国すべてが合意した国際目標で、17 の目標と 169 の具体的活動で構成される。
	ZEB (Net Zero Energy Building) ZEH (Net Zero Energy House)	「ゼブ」「ゼッチ」 消費する一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物。事業用ビルなどが ZEB、一般住宅などが ZEH。
	3R	「スリーアール」 Reduce (リデュース：減らす) Reuse (リユース：再使用) Recycle (リサイクル：再資源化) 3つの語句の頭文字をとったもの。循環型社会構築のためのキーワードとして用いられる。